NIE実践報告

1．タイトル：「新聞を読む」－新聞に触れ、社会を知るきっかけづくり－

2．学校名

岡山県立津山東高等学校

3．実践者名（代表者名）

伊東有希子・阿賀文郁

4．学年

1年普通科、２年食物調理科・普通科

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間、７クラス２８０名

6．単元（本時の学習課題）名

「新聞を読む」

7．目標（狙い）

日常生活の中で、新聞に接する機会を増やす。
新聞の情報をあくまでも参考に、自分の意見を述べることができる。

8．評価の視点

新聞に書いてある内容をあくまでも参考にして、自分の考えを述べることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

１年間の中で１ヵ月に1回程度、課題プリントを実施。総合的な学習の時間の進路学習の参考資料として使用できるものを自分で作成する。決まった時間は確保されていない。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①教員が原稿を作成する。
→記事は最初は教員が選び、長期休業課題などでは、自分で興味ある記事を選んで、意味調べや要約、考えた事などを記述するようにした。

②回収し、担任・副担任に添削等をしていただく。
→添削内容に関しては各先生方にお任せした。検印を押したり、実際に加筆をされたりとそれぞれの先生方によって添削方法に違いがあった。

③返却し、各自、総合的な学習の時間のファイル（全員購入）にファイリングしていくことで、今後の進路学習の資料として役立てられるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

教科の課題とは違い、強制力が弱いため、提出状況があまり良くなかった。
しかし、提出された内容を見てみると、同じ記事でも生徒によって捉え方が異なる事が分かり、面白かった。

12．成果と課題

生徒にとっては新聞が身の回りにある情報を入手するための一つの手段であることは理解してもらえた。
反省として、各教科でそれぞれが取り組まれている実践内容をもっと把握して、各教科とも連携を図っていく必要があるとともに、自分の意見を記述したり述べたりする機会をもっと設けていきたい。また、生徒にとって、自ら進んで活動に取り組めるような、興味を持ちやすい活動を展開していきたい。